遺伝性影響　その他の被爆二世疫学調査

■ 20歳までに発症した白血病、遺伝性の可能性のある腫瘍等の死亡

41,066名の追跡調査の結果、親の生殖線量（平均0.435Sv）と死亡との関連はありませんでした。

（出典：Y. Yoshimoto et al.: *Am J Hum Genet* 46: 1041-1052, 1990.）

■ がん死亡（1958年－1997年）

40,487名の追跡調査の結果、575件の固形腫瘍、68件の血液腫瘍が発症していましたが、親の線量との関連はありませんでした。（調査継続中）

（出典：S. Izumi et al.: *Br J Cancer* 89: 1709-13, 2003.）

■ 生活習慣病有病率（2002年－2006年）

約12,000名の臨床横断調査の結果、生活習慣病と親の線量との関連はありませんでした。（調査継続中）

（出典：S Fujiwara et al.: *Radiat Res* 170: 451-7, 2008.）

　放射線影響研究所では、親の被ばくが、子孫の多因子疾患である生活習慣病を増加させるかどうかを追跡調査しています。これまで、小児がん・白血病の調査[*1]、固形がんの調査[*2]、生活習慣病の調査[*3]が行われてきましたが、放射線の影響は観察されていません。

＊出典

1：Y. Yoshimoto et al.: *Am J Hum Genet* 46: 1041–1052, 1990.

2：S. Izumi et al.: *Br J Cancer* 89: 1709–13, 2003.

3：S Fujiwara et al.: *Radiat Res* 170: 451–7, 2008.

本資料への収録日：平成30年2月28日